

JST 次世代研究者挑戦的研究プログラム
～博士後期課程学生の挑戦を支援する～

**早稲田オープン・イノベーション・エコシステム
挑戦的研究プログラム(W-SPRING)
プログラム概要**

2022年8月10日

**早稲田大学 副総長
W-SPRING 事業統括
笠原 博徳
(理工学術院 教授)**

早稲田オープン・イノベーション・エコシステム挑戦的研究プログラム事業統括



早稲田大学 副総長(研究推進) 笠原博徳

IEEE Computer Society President 2018



【略歴】

1980 早大電気工学科卒、1982 同修士課程了

1985 早大大学院博士課程了 工学博士

カリフォルニア大学バークレー客員研究員

1986 早大理工専任講師、1988年 助教授

1989～1990 イリノイ大学Center for

Super computing R&D客員研究員

1997 教授、現在 理工学術院情報理工学科

2004 アドバンスマルチコア研究所所長

2017 日本工学アカデミー会員 (2020より理事)、
日本学術会議連携会員

2018 IEEE Computer Society 会長、早大副総長

2019 産業競争力懇談会(COCN) 理事

【受賞】

1987 IFAC World Congress Young Author Prize

1997 情報処理学会坂井記念特別賞

2005 半導体理工学研究センタ共同研究賞

2008 LSI・オブ・ザ・イヤー 2008 準グランプリ、
Intel Asia Academic Forum Best
Research Award

2010 IEEE CS Golden Core Member Award

2014 文部科学大臣表彰科学技術賞研究部門

2015 情報処理学会フェロー

2017 IEEE Fellow, IEEE Eta-Kappa-Nu

2019 IEEE CS Spirit of Computer Society Award

2020 情報処理学会功績賞、テレコム先端技術研究支援
センター(SCAT)表彰 会長大賞

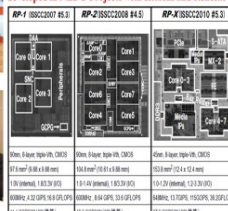
査読付き論文231件、招待講演226件、国際特許取得67件(米・英・中・
日等)、新聞・Web記事・TV等メディア掲載 695件

総合科学技術会議(平成20年4月10日)での
NEDOリアルタイム情報家電用マルチコアチップ(笠原リーダー)・デモの様子
<http://www8.cao.go.jp/cstp/gaiyo/honkaig/74index.html>
第74回総合科学技術会議【平成20年4月10日】



1985年よりコンパイラ(ソフト)
アーキテクチャ(ハード)協調
設計マルチプロセッサの研究

4 core multicore RPI (2007), 8 core multicore RP2 (2008)
and 15 core Heterogeneous multicore RPX (2010)
developed in NEDO Projects with Hitachi and Renesas



【政府・学会委員等】 歴任数 283件

IEEE Computer Society President 2018、Executive
Committee委員長、理事(2009-14)、戦略的計画委員長、
Nomination Committee委員長、Multicore STC 委員長、IEEE CS
Japan委員長、IEEE技術委員、IEEE Medal選定委員、ACM/IEEE
SC'21基調講演選定委員等

【経済産業省・NEDO】情報家電用マルチコア・アドバンスト並列化コンパイ
ラ・グリーンコンピューティング・プロジェクトリーダ、NEDOコンピュータ戦略委
員長等

【内閣府】スーパーコンピュータ戦略委員、政府調達苦情検討委員、総合科
学技術会議情報通信PT 研究開発基盤領域&セキュリティ・ソフト検討委員、
日本国際賞選定委員

【文部科学省・海洋研】地球シミュレータ(ES) 中間評価委員、情報科学技
術委員、HPCI計画推進委員、次世代スパコン(京) 中間評価委員・概念
設計評価委員、地球シミュレータES2導入技術アドバイザリー委員長等、
JST: ムーンショットG3ロボット&AI Vice Chair, SBIRフェーズ1委員長等

JST 早稲田オープン・イノベーション・エコシステム挑戦的研究プログラム

W-SPRING: 社会ニーズを理解した博士課程学生の育成(生活費・学費の支援)

産業競争力の強化と 世界に伍する研究大学への進化

年間180名の支援

早稲田オープン・イノベーション・エコシステムの確立

産官学連携、社会ニーズを理解した博士の育成、論文・知財創出、成功ベンチャーの育成によるスパイラルアップ

イノベーション創出

- ・SDGsを踏まえた4分野(グリーン、ライフ、デジタル、ソーシャル)の設定によって、幅広い研究領域を包含
- ・理工系と人文社会科学系博士学生の横断研究による総合知の創出

マネジメント・支援体制

- ・副総長(研究担当)・副総長(教務担当)・人社系常任理事・理工学術院長が指揮を取る全学プログラム
- ・事業統括・副統括が候補者全員を面談し優秀な学生を選抜

次世代研究者の育成

「次世代研究者挑戦的研究プログラム」採択プロジェクト・事業統括一覧

早稲田大学	笠原 博徳	早稲田オープン・イノベーション・エコシステム挑戦的研究プログラム	180
-------	-------	----------------------------------	-----

キャリア開発・育成コンテンツ

- ・卓越大学院、リーディング大学院、EDGE-NEXT、SCOREを活用した実績と魅力ある産学連携・起業家育成コンテンツ※
- ・多彩な50社の独自インターンシップとジョブ型インターンシップの併用、429社の産学連携共同研究を通じた人材育成

ベンチャー

- ・Waseda EDGE (EGDE-NEXT)
- ・SCORE大学推進型
- ・T-UNITE (SCORE)

GTIE

研究成果展開事業 大学発新産業創出プログラム		
<大学・エコシステム推進型 スタートアップ・エコシステム形成支援>		
採択機関一覧(2021年度審査分)		
Greater Tokyo Innovation Ecosystem (GTIE)		
参加している拠点都市のコンソーシアムなどの名称		
スタートアップ・エコシステム「東京コンソーシアム」		
主幹機関 東京大学	主幹機関 早稲田大学	主幹機関 東京工業大学

早稲田オープン・イノベーション・エコシステム

早稲田大学

研究活性化

- 博士学生支援(ニーズを理解した人材育成:授業料・生活費:Stipend)
- トップ論文誌・国際会議掲載支援
- 研究者インセンティブ:報奨・講義軽減
- 競争領域産学連携研究スペースの提供
- トップ研究者の雇用

産学連携推進

- ワンストップ窓口
- 知財創出支援:特許申請・審査(欧州400万円/件)
- 知財活用支援:ライセンス
- 産業界とのマッチング支援(WOI開催含む)
- シーズ技術紹介(広報)
- ニーズ解決に向けた学内チーム構築
- 契約支援(見積,学生含むNDA・知財)
- 研究費管理・研究倫理講座受講支援

ベンチャー創出・育成

- ファンド紹介・独自ファンド
- 知財ライセンス:現金・転換社債型
新株予約権付社債・株・新株予約権等
- チーム(経営・経理・会計・法律人材)紹介
- アクセラレーション(バリューアップ・マッチング)支援
- シリコンバレー、イスラエル等世界との協力

研究チーム構築・知財獲得

世界に有用な高付加価値
製品・サービス

産学連携研究

教員・大学院生・
産業界技術者・研究者参加
産業界からのニーズに基づく
未知問題解決・実用化に挑む

高度人材

共同開発技術・知財

信頼・協力
技術者
マッチング
新技術

シーズ紹介

ニーズ
研究費

創出・育成

支援
国

産業界

- 産学連携競争領域研究
開発・実用化
- ビジネスモデル構築
(標準化含め)

大学発ベンチャー



早稲田大学リサーチイノベーション統合センター

「リサーチイノベーションセンター」(2020年3月竣工)

副総長(研究推進担当)が
統括所長を兼任



リサーチイノベーション統合センター

統括所長: 笠原博徳

早稲田オープンイノベーションエコシステムの推進母体

研究戦略センター

所長: 若尾真治

URAを介した大学の研究戦略
機能

オープンイノベーション戦略研究機構

所長(機構長): 笠原博徳(兼任)

統括クリエイティブマネージャー: 中谷義昭

企業出身ファクトリ
ークリエイティブマ
ネージャーを活用し
た組織的企業連携

知財・研究連携支援センター (TLO: WTLO)

所長: 笠原博徳(兼任)

技術・法務専門家による
知財獲得・技術移転戦略機能

アントレプレナーシップセンター

所長: 柴山知也

ベンチャー支援、アクセラ
レーション

提携VC
(2018年11月~)

WERU Investment
Research & Business Developer



Beyond
Next
Ventures

JST Score プロジェクト

PoCファンド
(2020年7月~)



B1 コマツ百周年記念ホール



1階 イノベーションギャラリー

早稲田オープン・イノベーション・バレー (教職員・学生の挑戦を支援する環境の提供)

スマートエナジーシステム・イノベーションセンター



- JST「革新的イノベーション創出プログラム」(COIサテライト拠点)
- 蓄電池研究開発の拠点として広く学内外の研究者と連携

リサーチイノベーションセンター



- 総工費100億円(自主経費)による産学連携拠点の建設(2020年3月竣工、地上6階地下2階 総床面積18,000m²)
- 研究戦略・アントレプレナーシップ・TLO・文部科学省事業「オープンイノベーション機構」等各センターの統合
- 各種研究支援事業(産学連携ワンストップ窓口、産学連携契約支援、アウトリーチ機能)を整備

インキュベーションセンター

- 早稲田大学の学生・教職員を対象に起業支援を実施
- ベンチャー企業向けスペース・設備を整備

各務記念材料 技術研究所

- 文部科学省「環境整合材料基盤技術共同研究拠点」

早稲田アリーナ



- 多目的施設「早稲田アリーナ」(2018年12月竣工)
- 健康スポーツサイエンス研究を推進

早稲田キャンパス

- 「ナノライフ創新機構」「スマート社会技術融合研究機構」
- 国のDBと連携しオープンイノベーションを加速

- 「次世代ロボット研究機構」

戸山キャンパス

喜久井町キャンパス

西早稲田キャンパス

TWIns

グリーン・コンピューティング・システム 研究開発センター



- 経済産業省「産業技術研究開発施設整備事業」の支援を受け建設(2011年)
- 次世代マルチコア・メニーコアのハードウェア、ソフトウェア、応用技術等の研究開発を推進

【W-SPRING概要】

- 「早稲田オープン・イノベーション・エコシステム挑戦的研究プログラム」(W-SPRING) 科学技術振興機構 (JST)「次世代研究者挑戦的研究プログラム (SPRING)」による支援の下、博士人材が産業界で幅広く活躍するための素養の獲得と社会実装を目指す研究に取り組めるよう支援するプログラム。
- 本学の博士後期課程 1 ～ 3 年次および一貫制博士 3 ～ 5 年次に在学する学生が支援対象。JSTからの支援対象人数：3 学年で合計 180 人。
- 研究に集中できる環境を提供するため、科学技術・イノベーションの将来を担う志があり、社会貢献に挑戦する優秀な博士学生への経済的な支援（生活費・学費含む）。
- W-SPRINGで設定するキャリア開発・育成プログラムを通して、専門分野と社会実装までの道筋の双方を俯瞰できる博士学生を育成し、博士人材のキャリアを支援。
- W-SPRINGで設定した「**グリーンイノベーション**」、「**ソーシャルイノベーション**」、「**デジタルイノベーション**」、「**ライフイノベーション**」の4研究分野の研究を対象としている博士学生を支援。

【W-SPRINGが提供するキャリア開発・育成コンテンツ】

(1) キャリア開発・育成コンテンツ関連科目の9単位相当の修得 (必須)

- アントレプレナーシップおよびコミュニケーション・プレゼンテーション能力
- 社会課題の解決に資するデータサイエンス・情報科学の素養
- 実践的語学力

(2) 国際性を涵養するプログラムへの参加 (必須)

- 国際学会での研究発表
- 海外教員による研究指導
- 海外大学と連携した教育プログラムへの参加
- 海外の大学・研究機関等への研究派遣

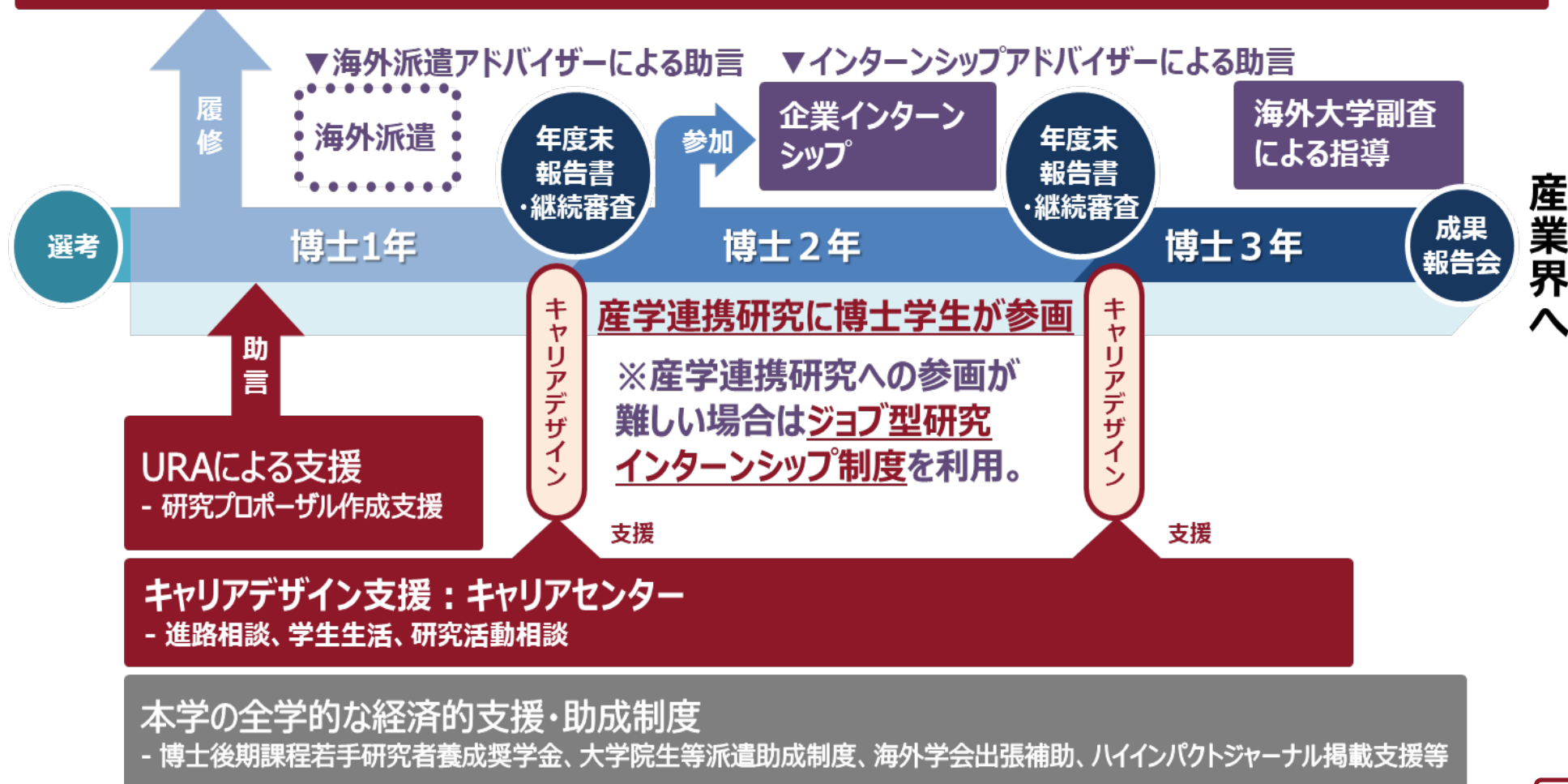
(3) 中期インターンシッププログラム (2~3ヶ月) への参加 (強く推奨)

- ジョブ型研究インターンシップの参加または、その他、個別インターンシップへの参加
- 民間企業等、学外機関の研究者との中長期共同研究の実施も本プログラムとみなす。

【キャリア開発・育成コンテンツと学生の育成モデル（例）】

キャリア開発・育成コンテンツ

- 1) アントレプレナーシップおよびコミュニケーション・プレゼンテーション能力：グローバルエデュケーションセンター(GEC)「**ビジネスクリエーションコース**」科目、「**リーダーシップ開発**」科目群から修得
- 2) 社会課題の解決に資するデータサイエンスの素養：「**データ科学認定制度**」科目中級相当以上等から修得
- 3) 実践的語学力（英語）：対象英語科目から修得



【2022年度（春学期時点）・支援学生の所属】

表1. 2022年度（春学期時点）W-SPRING支援学生の所属箇所（D1-D3の合計）

所属箇所	支援人数
理工学術院	130
スポーツ科学学術院	17
国際学術院	9
人間科学学術院	8
政治経済学術院	6
商学学術院	5
法学学術院	2
教育・総合科学学術院	1
社会科学総合学術院	1
文学学術院	1
合計	180

W-SPRINGの目的に合致し、「**グリーン**」、「**ソーシャル**」、「**デジタル**」、「**ライフ**」の研究分野で研究に取り組む博士学生であれば、所属学術院を問わず、支援対象となる。

2022年度（春学期時点）・研究分野別の支援学生数

グリーン



39

ソーシャル



48

デジタル



48

ライフ



45

計180名

早稲田オープン・イノベーション・フォーラムWOI' 22のご紹介



早稲田大学 副総長(研究推進) 笠原博徳



WASEDA
Carbon Net Zero
Challenge

<https://waseda-oif22.jp/>

WOI'22

WASEDA OPEN INNOVATION FORUM 2022

早稲田オープン・イノベーション・フォーラム2022

オンライン
開催

入場料無料
(事前登録制)
<https://www8.cao.go.jp/cstp/moonshot/index.html>



2022.
3.8^{tue}-15^{tue}

3.9^{wed}-10^{thu} ジェンダー
バランス
改善

オンライン
セミナー
(ライブ配信)

産学連携

ベンチャー
起業/
アクセラ
レーション

社会ニーズを
理解した
人材育成

人文社会系/
理工系の連携

研究推進
(知財創出・
活用含む)

国際連携

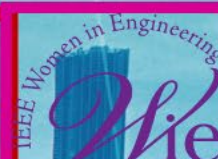
産官学および
学内人材
マッチング

産官学
連携

ベンチャー育成

・Waseda EDGE (EGDE-NEXT)
・SCORE大学推進型
・T-UNITE (SCORE) ・GTIE

W-SPRING シンポジウム
社会ニーズを理解した博士育成



経済界、ベンチャー、研究者、学生とのオンライン交流の場！



ブース展示

セミナープログラム

企業・ベンチャー・早稲田大学研究者によるオンラインブース展示
各ブースでは、持続可能な開発目標（SDGs）を提示

世界最先端の国内外企業・政府・大学リーダたちによる講演やパネルディスカッション

オープニング

早稲田大学総長 田中 愛治
実行委員長 早稲田大学副総長 笠原 博徳
文部科学省 経済産業省

招待講演・講演

隅 修三氏

一般社団法人日本経済団体連合会 副会長
東京海上日動火災保険株式会社 相談役

経団連 隅 修三 副会長



大橋徹二氏

一般社団法人日本経済団体連合会 副会長
コマツ会長（コマツは、理工学部創設恩人の
竹内明太郎氏が創設、コマツ百周年記念ホール）

コマツ 大橋徹二会長



MnDave West

CISCO Systems
Asia Pacific & China President
イノベーション研究「シュンバーター賞」受賞記念

清水 洋 早稲田大学 商学大学院 教授

ムーンショット型研究開発制度プロジェクト 研究紹介

菅野 重樹 早稲田大学理工学術院 教授

竹山 春子 早稲田大学理工学術院 教授

WASEDA'S Health Study紹介



CISCOアジア
パシフィック中国
Dave West社長

招待講演・講演

Susan Kathy Land 氏

IEEE 2021 President



IEEE Susan
Kathy Land 会長

櫻田 謙悟 氏

公益社団法人経済同友会 代表幹事
SOMPOホールディングス
グループCEO 取締役代表執行役社長

中谷 義昭 早稲田大学
オープンイノベーション戦略研究機構副機構長

木村 啓二 早稲田大学
グリーン・コンピューティング・システム研究機構機構長



経済同友会
櫻田 謙悟
代表幹事

早稲田大学研究院フォーラム

産学連携によるカーボンニュートラル研究の展開
～カーボンニュートラルの企業方針、本学との共同研究、
今後の産学連携研究の方向性～

- ◆早稲田大学カーボンニュートラル研究宣言
- ◆ロボティクス・ICTのシステムインテグレーションによるCN貢献
- ◆カーボンニュートラルの企業方針、早大との共同研究、今後の産学連携研究の方向性をリレー対談（電力ネットワーク/グリーントランスフォーメーション/通信ネットワーク・ICT/EV/建築・建設）

講演者・プログラムは変更になる可能性があります

産学連携協定記念講演

コマツ

三井不動産株式会社

プラチナ協賛企業講演

JST研究成果展開事業 社会還元加速プログラム（SCORE） Demo Day

若手研究者・学生の発表

早稲田オープン・イノベーション・エコシステム挑戦的研究プログラム（W-SPRING）
次世代アントレプレナー育成事業（EDGE- NEXT）, 高等研究所（WIAS）



121号館リサーチイノベーションセンター
コマツ百周年記念ホールより配信

【2021年度支援学生からの声】

＜財政支援＞

- 財政支援を受けたことによって**研究に費やすことのできる時間が格段に増えた**。
- 支援を受けたことで生活に余裕ができ、それに伴い、**精神面で余裕ができたことで、研究への注力が増した**。
- W-Springの財政支援により、**アルバイト等**をすることなく**研究活動に専念**することができており、非常に感謝している。
- 財政支援により、**研究に必要な資材や図書館には置いていない書籍などを購入**することができて、研究の円滑な遂行に大きく役に立った。

＜キャリア支援＞

- W-Springの**キャリア開発クラス（アントレプレナーシップクラスなど）**では、本来の研究分野にとどまらず、新しい貴重な知識を得ることができた。
- **起業に関する授業**の受講で、これまでない知識を得ることができた。

◆ 2022年度(秋)・W-SPRING 募集人数・支援期間&研究奨励費等の内容

◆ 募集人数・支援期間

支援開始時の状態		募集人数 (予定)	支援期間 (最大)
学年※	在学期間		
博士後期課程1年次(D1)	0.0年 (2022年9月入学)	15名程度	3.0年間
	0.5年 (2022年4月入学)		2.5年間
博士後期課程2年次(D2)	1.0年 (2021年9月入学)	若干名	2.0年間

※一貫制博士課程の場合は、3年次 (D1)、4年次 (D2) と読み替える。

※上記「在学期間」の () 内は、博士後期課程進学後に休学をしていない学生の例示。なお支援開始後に休学により在学しない期間が生じた場合、その期間は支援を中断する。

※支援期間は博士後期課程3年次、および一貫制博士課程の場合は5年次の終了までの最大3年間とする。ただし、支援期間中に日本学術振興会の特別研究員や本学助手に採用された場合等、W-SPRINGの支援要件を満たさなくなった者は、要件を満たさなくなった時点において支援打ち切りとする。

◆ 研究奨励費等の内容

評価結果	研究奨励費等の内容
S評価	年間290万円 (生活費相当額240万円 + 研究費50万円)
A評価	年間270万円 (生活費相当額220万円 + 研究費50万円)

◆ 2022年度(秋)・W-SPRING申請資格 (対象学年と研究分野)

◆ 申請資格 (1/2)

- (1) 2022年9月21日時点で本学博士後期課程1年次、もしくは、2022年9月21日時点で一貫制博士課程3年次に在学している者。

また、2021年9月に本学博士後期課程に入学し、2022年9月21日時点で博士後期課程2年次もしくは一貫制博士課程4年次に在学している者のうち、各入学年度に実施されたW-SPRING応募時に休学等の事情により応募資格がなかった者。

※日本国籍を有する者、特別永住者、出入国管理及び難民認定法の別表第二に規定される在留資格(永住者、定住者、日本人(永住者)の配偶者・子)を有する者、あるいは「留学」の在留資格を持ち、正規の課程に在籍している私費外国人留学生である者

	博士後期課程	一貫制博士課程
D1	1年	3年
D2	2年	4年

- (2) 研究テーマが、以下の横断的4分野のいずれかにし、貢献する意欲のある者。複数分野への申請は認めない。

	対象分野	主な研究テーマのキーワード
1	グリーンイノベーション	地球規模課題、気候危機、グローバル・アジェンダ、カーボンニュートラル、ゼロカーボンシティ、脱炭素社会、分散型社会、ローカル資源循環、海洋プラスチック、次世代型太陽電池、カーボンリサイクル、水素社会、マテリアルズ革新、ゼロエミッションハウス/ビルなど
2	ライフイノベーション	新型コロナウイルスなど感染症、少子高齢化、バイオ戦略、健康・医療戦略、オンライン医療・介護、プレジジョンメディシン、Well-being、人生100年時代、社会参加寿命、農林水産研究イノベーション戦略、海洋基本計画、レギュラトリーサイエンスなど
3	デジタルイノベーション	デジタル化、DX、超低消費電力計算、サイバー空間とフィジカル空間の融合、ロボットによる社会変革、AIと情報、データ戦略、Beyond 5G、データ駆動型研究、スマートラボ、デジタルツイン、スマートシティ・スーパーシティなど
4	ソーシャルイノベーション	都市と地域づくり、多文化共生社会デザイン、都市農業の戦略的再生、強靱な社会、レジリエント、安全・安心、安全保障、SDGs、循環経済(サーキュラーエコノミー)、ニューノーマル、総合知による社会変革、自然科学と人文・社会科学を融合した総合知、ELSI、イノベーション・エコシステムなど

- (3) 所属機関の指導教員、または博士後期課程の指導予定教員等が推薦する者
- (4) 研究倫理に関する研修（APRIN e-ラーニングプログラム(eAPRIN)「責任ある研究行為」）を受講済みあるいは、研究費の支給が開始するまでに受講する者

【支援開始時に以下に該当する者は、本プログラムの支援対象外】

- ・ 日本学術振興会（JSPS）特別研究員
- ・ 助手、研究助手
- ・ 支援期間中、所属する大学や企業等から生活費相当額として十分な水準（税込240万円/年）で、給与・役員報酬等の安定的な収入（※）を得ていると認められる学生。
※「安定的な収入」とは、正社員としての給与、ベンチャー企業の役員報酬、非常勤講師給等の固定的な収入を指す。
有償のインターンシップ、TA、RAやアルバイト等の収入、および研究費としての支援は「安定的な収入」に含まない。
- ・ 国費外国人留学生制度、日本政府による奨学金等、本国からの奨学金等の支援を受ける留学生
- ・ 奨学金を受給中または受給予定の学生も本プログラムへの申請は可能であるが、奨学金によっては、本プログラムに採択された際に、奨学金の採用取消や交付済み奨学金の返金を求められる可能性があることを了承のうえ申請を行うこと。

（注1）民間団体・地方公共団体等の奨学金を受給中または受給予定の学生はあらかじめ団体に条件を確認することが望ましい。

（注2）独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）の奨学金（貸与型）との併給は可能。ただし、独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）の学習奨励費（給付型）との併給は不可。

◆ 2022年度(秋)・W-SPRING : 選抜方法と選考の観点

◆ 選抜方法

1. 書面審査 : 志望動機、研究計画(独創性・挑戦性・産学連携を意識した研究計画等)、キャリアパスを記載
2. 面接審査 : プレゼンテーション(3分)と質疑応答

◆ 選考の観点

グリーンイノベーション、ライフイノベーション、デジタルイノベーション、ソーシャルイノベーションの4分野の学内外の専門家が審査員として入り、専門的な視点に加えて、

- 社会の課題解決・変革に資する内容であるか
- 社会実装あるいは新産業創出に繋がる可能性があるか

の2点を選考の観点の中心に置く

※ 書面審査・面接審査にあたっては、多様な専門分野の審査員が審査することから、専門分野外の審査員にも理解しやすいよう 分かりやすい表現で記載・発表を行うこと。

◆ 2022年度(秋)・W-SPRING : 申請期間・選考スケジュール・申請書類

◆ 申請期間

必ず指導教員の承認を得た上で、申請すること。

- 事前登録 : 2022年8月1日 (月) 9時 ~ 2022年8月23日 (火) 17時
- 申請受付 : 2022年8月1日 (月) 9時 ~ 2022年8月26日 (金) 17時

◆ 選考スケジュール

日程	実施内容	備考
2022年8月下旬～9月初旬	書面審査	2022年9月6日 (火) に、書面審査の採否・面接審査の日時を通知
2022年9月8日 (木)	面接審査 (Zoom)	2022年9月20日(火)に、面接審査の採否結果を通知
2022年9月中旬～下旬	登録手続き・ 誓約書の提出	
2022年10月1日 (土) 以降	支援開始	研究費の使用開始

※申請書類は、以下のWebサイトからダウンロードする。

(日) <https://www.waseda.jp/wspring/>

(英) <https://www.waseda.jp/wspring/en/>

◆W-SPRING事務局

My Waseda申請フォーム、<https://bit.ly/2WiXuf4>
を通じてお問合せ下さい。